

組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： **大学院保健学研究科**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標 博士前期課程、後期課程とも定員の充足を図る。休学者や長期履修者が修了できるよう研究指導体制を強化する。 研究の中間段階で「課題研究発表会」を実施し、指導教員以外の教員、研究者の意見を参考に、各自の研究の方向性や進行度合いを再認識する。研究の質の向上に努め、最終的には学位論文のレベルアップを図る。後期課程においては査読付英文誌への投稿を推進する。 博士前期課程では助産学コース、がん看護専門看護師、医学物理士、放射線安全・医療応用学コースと4つの専門職育成コースを持つことになり、これらのコースの教育内容の充実と教育体制の強化を進める。特に前期課程の助産学コースの充足と修了者の資格獲得を推進する。がん看護専門看護師養成コースでは授業科目34単位の取得が可能となるように準備を行う。	自己評価 ・平成27年度の入学予定者は博士前期課程26名(定員26名)、博士後期課程13名(10名)と定員の充足は達成されている。後期課程では修了延期者が24名おり、研究指導体制の強化が必要である。 ・学位審査会は3分野とも公開で行い、論文の審査を行った。 ・平成26年度の博士後期課程修了者4名中1名は査読付英文誌に掲載された。更なる学位論文のレベルアップが必要である。 ・平成26年度は博士前期課程の助産学コースの初の修了者6名を出した。 ・コースワーク主体のがん看護専門看護師養成コース、助産師養成コース、医学物理士養成コース、放射線安全・医療応用学コースでは質の高い教授法、教材の有効活用がなされた。 ・がん看護専門看護師養成コースでは授業科目34単位の取得が可能となるように準備した。平成27年度に申請する予定である。 ・平成26年度修了者 博士前期課程 23名 博士後期課程 7名 ・がん看護専門看護師 3名、医学物理士 0名、学部助産学コース 10名、大学院前期助産学コース6名が資格を取得した(25年度卒)。
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 博士前期課程、後期課程修了者数。 がん看護専門看護師、医学物理士、助産師の資格取得者数。	
②研究領域	
②-1 目標 本研究科の研究レベル向上のためには博士課程に在学する大学院生の研究レベルの向上が必要であり、これは教員の研究レベルの向上にも繋がる。岡山大学医学部保健学科から研究科への入学を促進する。これにより、将来当研究科の教員になり、教育、研究を行う人材を育成する。 大学院修了後の就職支援(研究者としてのキャリア支援を含む)体制を強化する。当研究科では特に女性の割合が多く、ライフワークバランスを考えた支援を行う。 科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。そのためには、学内の医歯薬理工農分野と連携し、共同研究を推進する。特に医歯薬学総合研究科、大学病院との連携を密にする。 科学研究費に関しては教員全員が申請する。	自己評価 ・平成27年度の博士前期課程入学予定者は26名で、岡山大学医学部保健学科からの進学者は21名であった。進学者の割合も良好である。博士後期課程の入学予定者は13名で、進学者は4名である。 ・博士前期課程の修士論文数は23編、博士後期課程の博士論文数 6編 ・科学研究費 応募件数38件 採択率(新規) 23.7%、採択件数 26件(新規9件、継続17件) ・外部資金 寄附金49件(15,735,140円)、共同研究8件(6,406,516円)、受託研究4件(4,050,000円) ・ウーマンテニュアトラック在籍者1名はテニュアを獲得し、26年4月より助教として任用された。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 保健学研究科博士前期課程への岡山大学医学部保健学科からの入学者数。 学位論文数(英文論文数)。 科学研究費応募数。 科学研究費採択率。	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標 助産師のリカレント教育を発展させる。更に助産師、保健師、保育士、養護教諭に加えて、生殖医療に関わる胚培養士を目指す農学部学生など「妊娠・子育て職能集団」の教育と育成を行う。将来の人材確保に向けて医療や子育てに関心のある高校生等の教育の場の提供、教育プログラム、e-ラーニングコンテンツの作成などを行う。 県との連携事業(不妊専門相談センター、生殖医療サポーターの会など)を推進し、地域貢献、社会貢献を行う。 外国人研究者、留学生の受入に努める。	自己評価 ・「学ぼう！妊娠・子育て」プロジェクト、「妊娠中から気になる母子支援」、「岡山水子育てネットワーク」連絡システムを岡山県、岡山県医師会、岡山県産婦人科医会と共同で運営した。 ・岡山県の支援で岡山大学病院内に「岡山県不妊専門相談センター」「おかやま妊娠・出産サポートセンター」を開設し、市民、県民の相談を行った。 ・「生殖補助医療技術キャリア養成教育研究拠点」を農学部と連携して運営し、胚細胞を育成した。 ・「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムによる助産師のリカレント教育は平成26年度は12回開講され、18名の登録者の内、12名の修了者を出した。
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 「妊娠・子育て職能集団の育成プラン」への登録者数。	
【総括記述欄】	
・博士前期課程については、保健学研究科としての目標をほぼ達成できた。しかし、博士後期課程については、修了延期者の解消が必要がある。研究指導体制を強化するため、准教授の資格審査を行い、指導教員の増加を図った。科研費の全員の申請を徹底する。	